



カットは大学立法強行採決抗議集会

「大学立法強行採決」が衆院で行われた翌日の二十五日、反日共系全学連各派とノン・セクト・フジカル学生による「全都全共闘」は、「緊急行動」として千駄谷の明治公園に約三〇〇〇人を動員、抗議集会を開いた。「大学立法成立近し」という切実な問題を控えるために、全体と

しては盛りあがる集会だったが、反帝学評と他派の口論、なぐり合（中核派は「社青同解放派を学生運動から放逐する」と表明）、革マル派に対する完全シャットアウト（若干名いた革マル派学生は他派学生の袋だたきに合った）

明治公園に3000人

—25日、大学立法反対行動—

全都全共闘が緊急行動

なく、学生戦線におけるセクトの対立は権力の凄まじい攻勢を前にして、なお根深いものであった。

集会は午後六時からの「出入国管理法粉砕集会」にそのまま移行し、白ヘル反戦、M系諸団体、各べ平連、留学生などが参加した。集会は午後八時頃閉会、その後国会に向けデモ行進が行なわれ

た。デモ隊は途中激しいシグザグデモなどを繰り返して、米大使館首相官邸、国会を固める機動隊の規制を受け、二〇人近くが都公安条例違反、公務執行妨害などで検挙された。

なお、この集会には本学全共闘からも約二〇〇人が参加、デモ隊の二番手として行動したが、横谷優一全共闘代表者会議議長がデモ指揮の疑いで国会前で私服警官に逮捕された。この逮捕は今後の明大全共闘にとって大きな影響を与えていると懸念されている。

デモ隊は日比谷公園で各大学別に総括集会を開き解散した。また、同日東大安田講堂では、「大学立法粉砕全東大共闘会議」が学生・教職員五〇〇人の参加のもと開かれた。